



学校教育目標 「心豊かな中学生」「自ら学ぶ中学生」「活力あふれる中学生」
常盤のみどり

さいたま市立常盤中学校
〒 330-0075
さいたま市浦和区針ヶ谷 4-1-9
TEL 048-831-3189
FAX 048-830-1561
E-mail:tokiwa-j@saitama-city.ed.jp

全国駅伝大会 特別号外



令和六年 師走十六日

結実の瞬間 ～全国中学校駅伝競走大会を終えて～

校長 玉崎 芳行

我らがチーム常盤駅伝女子チームの全国大会参加にあたり、御厚情、御厚志を数多賜りました。先ずもって、地域各自治会様、本校保護者や卒業生の皆様、クラウドファンディングにてお力添えをお寄せ下さりました皆様、本校PTA会長・後援会会長様をはじめとする関係者各位に、改めて衷心より感謝申し上げます。本当に有難う御座いました。

12月15日夕刻、ホーム常盤への帰路のバスでしたため。今この時しか遺せない想いを綴る。

全国大会が終わった…いや、終わってしまった。

今日までの長い道程に駅伝チームが刻み込んだ“人としての尊いもの”は、数え切れない。酷暑七月のチーム立ち上げの日、それぞれの思いを携え集った。一年生は、未知の領域への不安や恐れがあっただろうに。二年生は、昨年の経験を礎とする者、今年初めて挑む者、目指すものや決意も一人ひとりにあったろうに。そして、三年生は、最後に懸ける三年生にしか分からない重さがあったろうに。しかも、女子チームの三年生は、一人で、独りでグラウンドに立った。

“荒川の歓喜” “熊谷のキセキ” “富士の煌き”と、市、県、関東大会へとステージを駆け上がるたびに、彼女たちは、しなやかな強さを増していった。

全国大会前夜のミーティングは、本当に立派だった。

一年生が、“今、自分のできることを精一杯の力で尽くします。”と厚い責任感を滲ませ、少し大人びた顔つきでしっかりと表した。

二年生は、言葉に重みが増した。今までサポートして下さった全ての人たちへの感謝、共に走って

きた仲間への敬意、最後の襷への凜とした決意と覚悟、そして…走る背中でチームを鼓舞し支えてきた“三年生”のために、明日は走る、と…込み上げる涙を必死にこらえながら、心の底から伝えた。同席した駅伝スタッフも、落涙を禁じ得なかった。

最後に、三年生の主将が、思いを仲間にも託した。「…明日が、このチームで活動できる最後の日…みんなが悔いの残らないように、駅伝をやってきて良かったと思えるように、私は、全力で走る。一番の思い出を作しましょう。」

何と美しい人たちなのだろう。もう、彼女たちの心の中には、結実の瞬間が紡がれていたのかもしれない。

大会当日の走りは、まさに“チーム一丸”となった。埼玉県女子代表としては、大健闘の全国13位であった。レースを終えた後の16名のなでしこたちは、みな清らかな充実感をまとっていた。期せずして、3年生の主将の胴上げが始まった。1回、2回、3回と抜けるような青空に彼女が舞った。

前夜のミーティングで彼女たちが思い描いた通りの全国大会となった。

彼女たちの紡いだ努力が実を結んだ。

結実の瞬間は、誰の心に刻まれたのだろうか。

バスの車窓から夜空を見上げる。真ん丸のお月さまが、無限の可能性を秘めた彼女たちの寝顔に優しく微笑んでいる。

